

科目コード	3G205		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公共経済学		担当者名	平野 正樹			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

<授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。そして、経済・財政問題の改善・解決策に向けて公がとるべき諸政策について何らかのコメントができるようになることを一つの目標とする。

<授業の方法>

主として黒板を活用

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と出席率等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。¥n

<教科書>

なし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	公共経済学と財政学	市場の失敗、市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(I)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(II)	資源配分機能 所得再分配機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(I)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(II)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15	まとめ	公共経済学と財政学

科目コード	28102		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	経済学概論		担当者名	歌代 哲也			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この講義では経済学の基本的な考え方を身につけることを目的とする。現代の社会では、私たちの個人個人の日常生活から、国家の財政まで多くの経済活動が行われている。経済学はこうした人間の経済活動を対象としている。講義の前半では私たち個人や企業の経済活動（ミクロ）を扱い、後半では、個々の集合・結果としての全体（マクロ）をそれぞれ中心として講義を行う。受講生の理解が深まるよう、時事テーマやニュースも具体的な題材としながら進めていく。

<授業の到達目標>

本科目では、経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の観点からアプローチし、問題意識とその解決の方向性を探るための経済学的思考や分析視点の習得を目指す。経済学の基礎理論であるミクロ経済学及びマクロ経済学の基本概念を理解することを目標にするとともに、身近な経済問題にも興味を持つようになることにも目標を置く。

<授業の方法>

教科書を教材とする。パワーポイントを用いた授業を中心とし、受講生によるディスカッションも行う予定である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト70%、各授業におけるレポートの提出・内容、授業態度等30%。なお、レポート等についてはその都度模範解答を提示・説明する。

<教科書>

蔭山克秀  
経済学の名著50冊が1冊でざっと学べる（角川ソフィア文庫）

KADOKAWA

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	経済学を学び始める皆さんへ
2	重商主義とは何か	近代に向かう過程
3	経済学の誕生	アダムスミスの生きた時代と、その考え方
4	資本主義の起原	敬虔なピューリタンか強欲な商人か
5	資本主義の起原	消費の意味合い
6	古典派の理論（2）	リカード、マルサスの時代と、労働価値説
7	古典派の理論（3）	（続）リカード、マルサスの時代と、労働価値説
8	経済学批判	マルクスの時代と、その考え方
9	ミクロ経済学の誕生	限界革命、効用とは何か
10	ミクロ経済学の誕生	ワルラスの一般均衡理論とは何か
11	マクロ経済学の誕生	ケインズの時代と、その考え方
12	マネタリズム	現代社会と、フリードマンの考え方
13	貨幣との関わり	貨幣発行自由化論、キャッシュレス決済
14	金融政策	わが国の金融政策とその現状
15	総括	この授業のまとめ

科目コード	28106		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記入門		担当者名	手嶋 竜二			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

簿記は実学である。簿記を習得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つ。本科目では、簿記の入門編として、簿記の基本原則である取引の範囲・取引の8要素（費用・収益・資産・負債・資本）の認識、及び会計処理を学び、総合問題対策として問題集などを利用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級の合格を目指す。

<授業の到達目標>

① 簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原則を理解する。② 基礎的な取引の仕訳ができるようになる。③ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。④ 日商簿記検定3級の合格レベルを目標とする。

<授業の方法>

① 授業の方法は、予習型の方式で事前に動画を配信する。授業では、主に問題演習を中心とする。② 解いた問題の解説を行う。③ 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓不可）および定規を持参すること。④ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。⑤ 本科目では、日商簿記検定合格を目指している。日商簿記検定では答案用紙に手書きで回答するため、本科目でも手書きを主体とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%  
フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2023/2/21)  
スッキリわかる 日商簿記3級 第14版  
TAC出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記とは
2	仕訳①	商品売買①、数字の書き方
3	仕訳②	商品売買②
4	仕訳③	現金、普通預金、定期預金、当座預金
5	仕訳④	手形、貸付金・借入金
6	仕訳⑤	その他債権債務、その他費用、有形固定資産
7	総勘定元帳（略式）	勘定への記入
8	試算表の作成	試算表の問題演習
9	精算表	問題を使用した解き方の説明
10	決算整理仕訳①	問題を使用した解き方の説明
11	決算整理仕訳②	問題を使用した解き方の説明
12	財務諸表の作成①	日商簿記検定での解き方の説明
13	財務諸表の作成②	日商簿記検定での解き方の説明
14	問題演習	日商簿記検定での解き方の説明
15	まとめ	本科目のまとめとアンケート

科目コード	3G200		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ミクロ経済学		担当者名	歌代 哲也			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、消費者と生産者を中心として、消費者が限られた予算内で財(商品)を購入する際にどのような基準で意思決定をするのか、生産者が限られた資源(土地、労働等)をどのように有効に活用し財(商品)を生産しどのような方法で売り、そしてそれに伴う需要と供給、価格と数量の決まり方等、ミクロ経済学の基本的な考え方について学ぶ。これらの意思決定はわたしたちの生活にも身近なものであり、ミクロ経済学の考え方が現実の経済問題にどのように応用可能かについて理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、ミクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対してミクロ経済学の観点からアプローチし、問題意識とその解決の方向性を探るための経済学的思考や分析視点の習得を目指す。経済学の基礎理論であるミクロ経済学の基本概念を理解することを目標にするとともに、身近な経済問題にも興味を持つようになることに目標を置く。

<授業の方法>

教科書を教材とする。板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、レポート50%で評価する。

<教科書>

飯田幸裕, 岩田幸訓(2018)

入門 経済学 [第四版]

創成社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ミクロ経済学を楽しむ方法	ガイダンス・ミクロ経済学を学ぶ意義
2	市場経済	インセンティブ(誘因)、商品の希少性
3	需要と供給	市場の均衡
4	価格と需要	需要曲線のシフト、需要の価格弾力性
5	需要と効用	効用とは、消費者余剰とは
6	価格と供給	供給曲線のシフト、供給の価格弾力性
7	供給と費用	生産費用の考え方
8	供給と利潤	利潤最大化概念、生産者余剰とは
9	完全競争と資源配分	最適資源配分の考え方
10	余剰分析	社会的総余剰、課税の効果
11	独占	不完全競争による市場のゆがみ
12	寡占	協力と裏切り、ゲーム理論
13	市場の失敗	外部性、公共財
14	ミクロ経済学と日本経済	貿易、公共料金
15	数学とミクロ経済学	経済学の数的理解

科目コード	3G201		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	マクロ経済学		担当者名	歌代 哲也			○		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、国内総生産、物価、利子率、失業率等の国(または地域)を単位とした経済指標・経済活動を中心に、日本及び世界経済におけるマクロ経済指標の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるかについて学ぶ。またマクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割・必要性を理解し、これらの政策の効果を実際の経済データ等を用いて学ぶ。日本及び世界経済が抱える経済問題について、マクロ経済学の考え方で思考できることを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、マクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の視点からアプローチすることでマクロ経済全体の動きを理解しようとする、経済学的発想・思考の習得を目指す。具体的には、マクロ経済学の基礎理論を正しく理解することを第一の目標とし、マクロ経済政策、失業や物価問題、経済成長など、今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当て、マクロ経済学の視点から分析・考察して自分なりの見解を導き出すことを第二の目標とする。

<授業の方法>

本講義は講義形式で行う。講義レジュメや各種資料は電子データ(pdfデータ)で配布するため、それらの参照用に、学生自身の情報端末(パソコンやタブレット)の持ち込み・利用を必要とする。また、分からない用語や内容については各種検索webサイトを利用して、授業中でも適時情報検索してもらう。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、レポート50%で評価する。

<教科書>

飯田幸裕・岩田幸訓(2018)

入門経済学〔第四版〕

創成社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	マクロ経済学を楽しむ方法
2	経済規模を測るGDP(1)	GDPとは何か、名目と実質、経済成長率
3	経済規模を測るGDP(2)	付加価値、三面等価の原則、GNI
4	供給サイドから見るGDP	潜在経済成長率、総要素生産性
5	需要サイドから見るGDP	寄与度、GDPの支出面
6	需要・供給と日本経済	新古典派とケインジアン考え方
7	生産・所得・需要の決定と消費関数	乗数効果、消費関数、45度線と所得水準
8	投資・政府支出の導入と国際経済への拡張	投資と政府支出、ISバランス
9	貨幣が持つ機能	貨幣とは、貨幣の機能
10	マネーサプライとハイパワードマネー	信用乗数、マネーストック
11	貨幣供給と貨幣需要	貨幣供給と物価、貨幣数量式、貨幣需要とは
12	マクロ経済政策	政策目標と政策手段、財政政策と金融政策
13	インフレーションと失業	インフレーションとは、失業率、フィリップス曲線
14	経済成長の理論	資本蓄積、労働人口、技術進歩、ハロッド=ドーマーの理論
15	総括	経済学と経営学

科目コード	65019		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公務員と法		担当者名	宮園 司史			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

良好な治安を確保し、国民の生命、身体及び財産を守ることは、国の基本的な責務であるが、現在、我が国の治安は、サイバー犯罪・サイバー攻撃、国際テロ、組織犯罪といった重大な脅威に直面している。本科目では、このような責務の遂行に当たっている公安系公務員の業務を詳しく紹介するとともに、警察幹部としての経験談を交えながら、我が国の安全・安心の現状や課題、警察等における各種取組等について、幅広く取り扱い、我が国のセキュリティに関する理解と認識を醸成する。

<授業の到達目標>

公安系公務員の業務や我が国のセキュリティに関する基本的な知識を身につけるとともに、「世界一安全な日本」を実現するための各種取組についての理解を深めることを目標とする。

<授業の方法>

「集中講義」方式により授業を実施する。具体的には、毎回、各テーマに沿った内容について、パワーポイント等を使用して分かりやすく説明した動画を教材として配信するとともに、それぞれの授業に関して出題する課題への回答・提出を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加状況・態度 50%、授業内レポート50%により、総合的に評価する（特に、受講態度については厳正にチェックする）。なお、規定以上の欠席回数がある場合および代筆レポートの提出その他受講態度に問題がある場合には、一切、単位を認めないので、注意すること。＼n

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	警察の任務と活動（その1）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
2	警察の任務と活動（その2）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
3	消防の任務と活動（その1）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
4	消防の任務と活動（その2）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
5	自衛隊の任務と活動（その1）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
6	自衛隊の任務と活動（その2）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
7	海上保安庁の任務と活動（その1）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
8	海上保安庁の任務と活動（その2）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
9	国民生活の安全確保（その1）	女性・子供の安全確保に向けた各種の取組や、昨今大きな社会問題となっている特殊詐欺の現状とその対策等について説明する。
10	国民生活の安全確保（その2）	地域住民の安全確保に向けた各種の取組や、犯罪を抑止するために進められている諸対策等について説明する。
11	犯罪情勢と捜査活動（その1）	我が国における犯罪の発生状況や検挙状況等を通じて、昨今の犯罪情勢の特徴、傾向等について説明する。
12	犯罪情勢と捜査活動（その2）	昨今の犯罪情勢に的確に対処するための課題や捜査活動の取組の現状等について説明する。
13	サイバー空間の安全確保	サイバー犯罪やサイバーテロ、サイバーインテリジェンス等、サイバー空間における各種の脅威の現状について説明する。
14	薬物犯罪を巡る動向と対策	覚せい剤等の薬物犯罪を巡る昨今の動向とその根絶に向けた対策の現状等について説明する。
15	総括・安全安心の現状	全体の講義を総括するとともに、我が国の安全・安心を脅かしている各種の治安事象や将来の見通し等について説明する。

科目コード	35217		区分	コア科目¥nスポーツビジネス			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツ経営学入門		担当者名	平岡 師玄哉			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

人間世界の様々な部分に経営管理が存在することを理解し、スポーツの世界にも経営管理が存在することを理解する。さらに、その経営管理の立場から「豊かなスポーツ生活」の実現をするために、その理念と方法を学習することに重きを置く。特に、運動者の立場に立った経営管理の考え方を重視するとともに、現代スポーツ社会における諸問題を中心に、具体的な実践につながるような授業を展開していく。

<授業の到達目標>

地域等のスポーツ振興に必要なスポーツ経営の基礎理論及び実践的方法論を学習する。特にスポーツ経営の諸問題を参考にしながら、経営学的な考え方をできるようにする。

<授業の方法>

講義とグループワークを織り交ぜながら行っていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、 授業内容についての課題 40%、 レポートの課題 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

畑攻・小野里真弓

基本・スポーツマネジメント

大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観	クールアプローチとウォームアプローチ
6	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
7	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
8	スポーツ事業と運動生活 I	運動の成立条件としてのスポーツ事業
9	スポーツ事業と運動生活 II	運動生活と各スポーツ事業の特色とマネジメント
10	スポーツリーダーシップとマーケティングの基本	競技スポーツ集団としての組織論と消費者の認知行動過程
11	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策¥n
12	スポーツの普及・振興を目指して I	アスリート育成とマネジメント
13	スポーツの普及・振興を目指して II	ダンス指導とマネジメントとフィットネスクラブのマネジメント
14	スポーツの発展・スポーツ教育の充実を目指して	女性スポーツとマネジメント、スポーツ地域マネジメント
15	スポーツ経営学入門のまとめ	スポーツ経営学の基本的なまとめ

科目コード	37506		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツマーケティング論		担当者名	小堀 浩志			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、消費者に求められているスポーツの本質的価値はどのようなことなのか、マーケティングとはどのようなことなのかを考え、その上でスポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

<授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解する。プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例、今後のスポーツマーケットの成長課題を考察する。

<授業の方法>

講義形式を基本とし、少人数でのグループワークを展開していく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30% 授業課題(毎回の小テスト) 30% レポート課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

原田宗彦 藤本淳也 松岡宏高 編著者(2020年9月1日)  
 スポーツマーケティング改訂版  
 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か?	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランド戦略、ブランドエクイティとは何か、ライセンスング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	事例紹介②国内スポーツ	プロチームマーケティング事例
15	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ

科目コード	54005		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	資格検定対策V (ICTスキル系)		担当者名	倉田 知秋			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代の社会では様々な業種・職種において、効率的な業務運用、成果報告の手段としてのコンピュータ利用は今や必須のスキルである。本科目ではコンピュータリテラシーⅠおよびⅡで修得した知識を活かし、コンピュータ操作の習熟度を高めるとともに、Word, Excel等のアプリケーションを効果的に使いこなす技法を身につけることを目的に、Microsoft社が提供・実施するOfficeアプリケーションの資格検定試験MOS (Microsoft Office Specialist) の資格取得を目指す。

<授業の到達目標>

資格試験対策勉強を通じて、PC操作の習熟を目指すとともに、ビジネスアプリケーションの重要性と業務効率性との関係について学ぶ。また、MOS試験の概要を理解するとともに、試験に合格するための力を身につける。

<授業の方法>

MOS試験のうち、Word、Excelの3科目を受験対象科目として講義を行う。授業期間は前・後期の通期のため、概ね2週に1回程度の進度である。それぞれの試験の出題範囲の各テーマごとに解説をオンデマンドで配信し、問題演習で理解度をチェックする。また、教科書に付帯の模擬練習問題を各自で実施して理解度を高める。合格するための勉強方法についても適宜解説する

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

オンデマンド配信の視聴確認と問題演習の提出（40%）、模擬試験問題の達成状況（60%）で評価する。

<教科書>

富士通エフ・オー・エム  
MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集  
FOM出版  
富士通エフ・オー・エム  
MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集  
FOM出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	MOSの解説、試験概要
2	Word練習 (1)	Word文書管理
3	Word練習 (2)	文字、段落、セクション、書式設定
4	Word練習 (3)	表、リストの管理
5	Word練習 (4)	参考資料の作成管理
6	Word練習 (5)	グラフィック要素
7	Word練習 (6)	共同作業の管理
8	Word練習 (7)	Wordの出題範囲と模擬試験
9	Excel練習 (1)	ワークシート・ブックの管理
10	Excel練習 (2)	セルのデータ管理
11	Excel練習 (3)	テーブルのデータ管理
12	Excel練習 (4)	数式と関数
13	Excel練習 (5)	グラフ管理
14	Excel練習 (6)	Excelの出題範囲と模擬試験
15	理解度確認	Word・Excelの出題の確認と攻略ポイント